

中部地区 公民館だより

第185号

令和8年7月1日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379

講習会ですが… つい力が入ります



講師の高橋さん、斎藤さん



5月26日(火)、生涯学習センター体育館でラージボール卓球の講習会(第1回)が行われました。上山ラージクラブ会長の高橋茂さん、副会長の斎藤茂光さんにご指導いただき、会員の菊田さんにもご協力いただきました。初めて体験する方もいたので、ルールの説明とラケットの持ち方などを丁寧に教えていただきました。実技ではサーブや打ち返す時のラケットの向きなどを個別に教えていただき、相手を交代しながらラリーを楽しみました。最後に全員での的当てゲームを行い、大変盛りあがりました。短時間でしたがラージボール卓球に親しむ良い機会となりました。

11月にも講習会(2回目)を予定していますので、ぜひ多くの方に参加いただきたいと思います。

新緑の西山を楽しく散策

6月3日(水)、牧野義文さん(西山地区)の案内で街歩きウォーキング①を開催しました。雨天のため2度延期になり、やっと天気にも恵まれました。新緑の美しさを観賞し、生息する生き物や植物について学び、ゆっくりと西山の自然に触れることができました。ハッチョウトンボは残念ながら観ることができませんでしたが、ヒメサユリはまだ咲いていて、優しく可憐な姿に癒されました。散策の最後には俳句にも挑戦し、優秀作には牧野さんから「西山街歩きウォーキング賞」が授与されました。体力と知力を使った散策となり、とても楽しかったです。

地域を

見る



知る

学ぶ

楽しむ

街歩きウォーキング

熊対策花火を体験



高齢者教室

開級式



片桐さん



会田さん



5月29日(金)、公民館の多目的ホールにて令和8年度の「はこべの会」開級式を行いました。今年度は新しく入会した方が6名おり、賑やかな開級式を迎えることができました。

「はこべの会」では一日研修やスポーツ教室、歌の教室など様々な学習会を予定しています。今年度もたくさん楽しい思い出をつくれるような活動をしたいと思います。



歌いながら楽しく運動

学習会 歌の教室



開級式の後には、講師に片桐さん、会田さんを迎え音楽教室を開催しました。

歌を歌ったり、歌いながら軽い運動をしたりしました。曲は童謡や昭和歌謡など合計12曲ほどで、会員の皆さんは「これ知ってる。懐かしい歌だよねえ」「わたし、この歌知らないけど、いい歌だよね」など話の輪が広がっていました。

フライングディスクと輪投げ大会



輪投げ



フライングディスク



ペットボトル倒し

6月9日(火)、公民館の多目的ホールにて「フライングディスクと輪投げ大会」を開催しました。毎年生涯学習センターで行っている事業でしたが、暑さによる熱中症の心配をするよりも公民館の多目的ホールで行ったほうが良いのではないかという意見があり、試しにやってみる事になりました。

会場が狭くなってフライングディスクの遠投が出来なくなりましたが、ペットボトル倒しという新しい種目に挑戦する事ができました。

各種目の優勝者は優勝賞品を、他のみなさんもニコニコしながら参加賞を受け取っていました。楽しい時間をすごすことができました。

一般講座 防災講座



地区会長を含め 18 人の参加者

携帯
非常食



避難所運営ゲーム(HUG)



6月12日(金)、講師に庶務課危機管理系の鈴木係長と防災専門員の佐藤さんを迎え、防災講座を開催しました。

中部地区公民館を例に、避難所でおこる様々な事を想定して避難所運営ゲームを行いました。

ゲームをして感じたのは、急に避難所を開設するのは無理があり、マニュアルを作成し運営できるようにすることが大事なことだということでした。今回の防災講座で行った、避難所運営ゲームを公民館が有る、無しがあるとは思いますが、地区会で話をして万が一の場合に備えていただければと思います。

最後に参加者の皆さんからの質問にも丁寧に答えていただき、有意義な時間を過ごすことができました。

6月6日(土)、公民館利用者様の協力のもと公民館大掃除を行いました。
大変きれいになりました。ありがとうございました。

一般講座

初心者向けのスマホ教室

危険な広告の対処のしかた等

日	時	7月22日(水)
		午前10時から午前11時30分
場	所	中部地区公民館 会議室1
講	師	佐々木 壽さん
対	象	中部地区在住の方
		スマホを持っている方
募集人数		10人程度
参加費		無料
申込締切		7月17日(金)
持ち物		使用しているスマホ
		必要な方は飲み物

参加者募集

体育レクリエーション

モルック講習会

日	時	7月29日(水)
		午前10時から午前11時30分
場	所	中部地区公民館 多目的ホール
対	象	中部地区在住の方
募集人数		15人程度
参加費		無料
申込締切		7月23日(木)
持ち物		内履き、タオル

参加者募集

健康ポイント対象事業 20P

7月の予定

- 8日(水) 高齢者教室
学習会③ モルック 他
- 10日(金) 一日研修
- 15日(水) はこべの会 サロン
- 22日(水) スマホ教室
- 29日(水) モルック講習会

はこべの会 7月のサロン

酷暑に冷たいそうめんて茶話会

日	時	7月15日(水)
場	所	中部地区公民館 多目的ホール
会	費	300円
申込締切		7月9日(木)

7月の百歳体操 2、9、16、23・30日

7月10日(金)は公民館事業のため職員は不在になります

藤井松平氏シリーズ6. 松平信行（8）「横川堰」

よこかわせき

町場の大火災復興の象徴は湯の上観音堂再建でしたが、江戸後期の村々はどのような状況だったのでしょうか。

同じ信行侯代の中生居村の大庄屋奈良崎助左衛門のことを紹介します。やや大きな視点からですが、土岐氏治世の終わり元禄5年（1692）からの米の取れ高は寛政4年（1792）までの100年間に減少つづけ城附領（上山内）1万5千石の収入は9千石に減少しています。見ル目ヶ原一揆のあった大不作の後の宝暦5年（1755）は取れ高6千石でした。大雨での川欠、漬田が出つづけたこと、干魃で青枯れが繰り返されたことと市史は述べています（上・896p表）。年貢滞納は五人組や村全体の責任となり、種借りでの耕作も成り立たなくなりました。安定的に米の収穫を目指すには永続的に調整できる川水が必要で、人々は水源を「水神」と崇め大切にしました。

さて、上山には龍王橋上流で一本となる須川、蔵王川、前川があります。この天然の川水を春になると田に引きいれますが、川の水は丘陵地の田畑に及ばず、上流から低い田畑へ水路を導き入れる必要がありました。江戸時代までに人工開鑿の堰は前川水系用水堰29、蔵王川用水堰14、前川用水堰27で、その支流堰を含めると計156あります。開鑿年代をみると前川利用の堰が古代からあり、灌漑面積が小さいながら利用してきたことがわかります（沿岸に須恵器、古窯跡）。「沢庵堰」、「八幡堂堰」は月岡城時代とともに設けられた著名な堰ですが、田畑用には蔵王川水系、生居川水系で大規模灌漑用堰として開鑿しました。加えて見ル目原一揆（延享4、1747）は、豊かな稔りへの渴望が記憶となりなりました。元禄期後の蔵王川水系の登り堰、永野赤羽堰、堀切堰、生居川水系の上生居堰、泥部堰は広大な地帯を潤す灌漑用水として造作されましたが、田園の中心地域、一揆が発生した牧野、見ル目原地帯に田畑を潤す用水は及びませんでした。

中生居の奈良崎家は代々続く名門の庄屋です。広大な土地を所有しながらも世を憂える心と慧眼を持っていたのでしょうか。七代助左衛門（安永8、1799～）は幾夜も考えた末の文政4年（1821）9月に用水が行き届かない地域を潤

すために須川上流の古屋敷、萱平のさらに上流に分け入りました。川の水源は果て、それでも奥山へ登りました。今でも車で1時間以上かかるほど、水を求めて辿り着いたのは舟引山（1172m）の分水嶺を越えた白石藩の横川でした。南蔵王からの一枚石沢、滾々と水が湧く鳴戸沢、本流横川に辿りつきました。この水を利用できると考え御公儀上山藩庁、伊達藩角田役所に掛け合い願いを出しました。そして文政5年（1822）4月に自費で用水堰の工事を始め650間（119m）用水路を掘り、中止命令を挟んで9月にひとまず旧横川堰を完成させました。投じた費用は429両1分2朱（人夫2716人）です。弘化4年（1847）七代助左衛門は69歳で生涯を閉じ、その後八代助左衛門（容之助）が後を継いで嘆願を繰り返し、失職した士族の開墾事業（政府から1万3千円）もあって明治2年に山形県令三島通庸、宮城県令松平正直が楡下で会談し越境分水が正式に許可、明治13年（1880）に60mのトンネル、3kmの水路、120mの掘割で山形県側の萱平川に落とす「横川堰」水路が完成したのです。（明治16年1883に八代助左衛門逝去）

現在、全国唯一県境をまたぐ横川堰水量は毎秒0.2t、萱平川から須川に注ぎ、流域500町歩（≒500ha）の田畑と人々の心を潤し、収穫米の一部が七ヶ宿町に届けられています。郷土の苦難の歴史に私財を投じて昼夜尽力した奈良崎家助左衛門のことを忘れてはならないと思います。

七代助左衛門の句「うつむきて もの言いたげな 百合のはな」

八代助左衛門の歌「世の中の八苦の海を漕ぎわけて蓮の御船に乗るぞうれしき」



横川堰用水路概略図（土地改良区提供）

※参考資料：「上山市史」（上・中）、上山土地改良区資料、「用水堰関係資料」③⑤、土地改良区元理事長木村剛仁氏資料、その他